

(証券コード6325 東証・名証1部)

# 2020年3月期第2四半期 決算説明会資料



2019年12月17日

**Takakita**

1

2020年3月期第2四半期  
決算の概要

2

当期の業績予想

3

経営TOPIXと  
今後の成長戦略

ご参考(当社の概要等)

# 1. 2020年3月期 第2四半期決算の概要





## 【農業機械事業】 国内⇒減収

- 新製品効果や一部の製品の売上は堅調に推移したものの、畜産クラスター事業による導入の遅れや天候不順の影響もあり減収。



## 【農業機械事業】 海外⇒減収

- 欧州向けの輸出は増加したが、中国・韓国向けの輸出の減少。



## 【軸受事業】⇒増収

- 風力発電用軸受等の受注が増加。

売上高 37億82百万円 前年同期比 -6.9%

営業利益 3億80百万円 前年同期比 -18.6%

経常利益 3億97百万円 前年同期比 -18.8%

当期純利益 2億54百万円 前年同期比 -30.4%



売上高、各利益とも当初業績予想を下回って進捗

# 2020年3月期第2四半期決算の概要

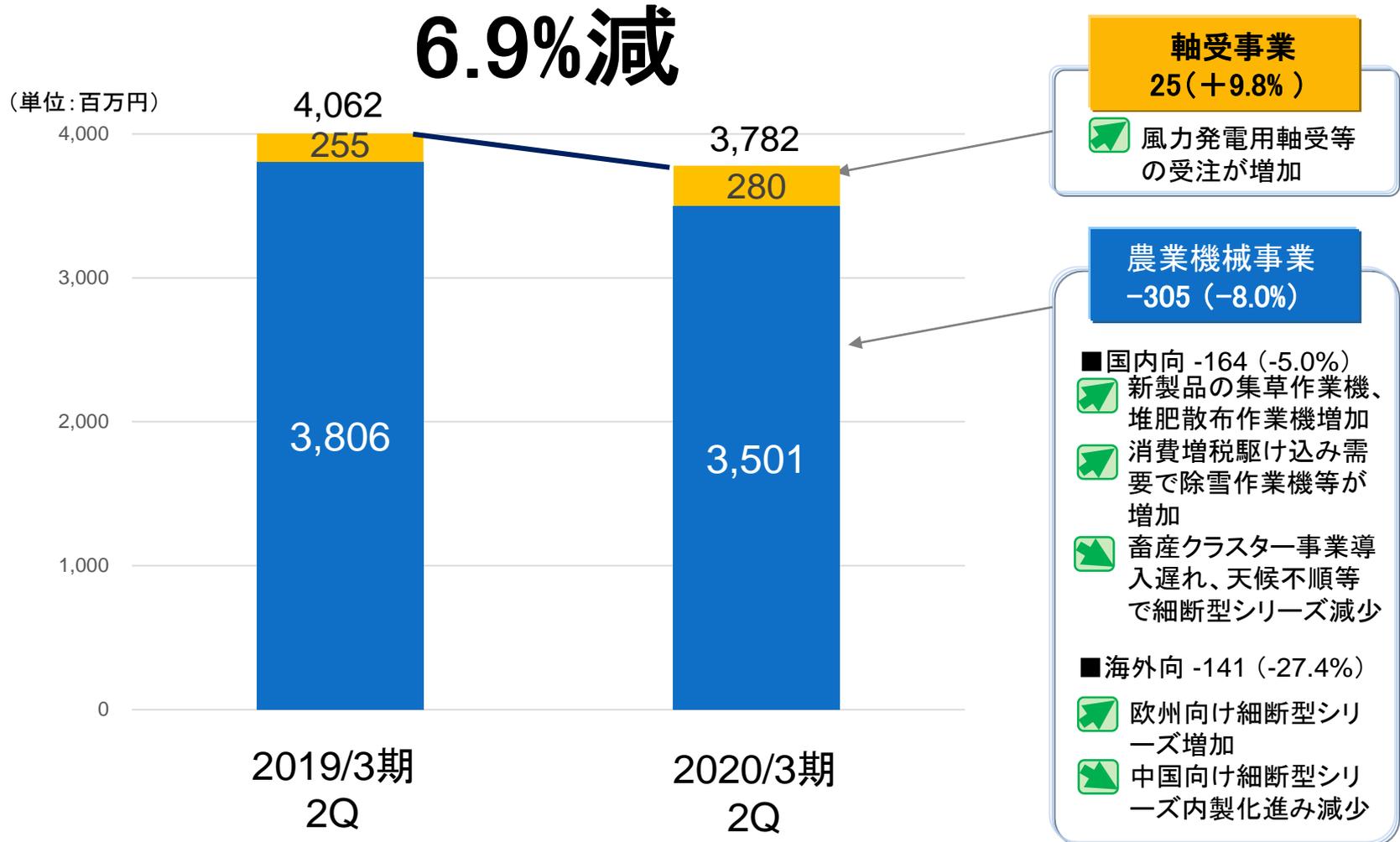
(単位:百万円)

科目	2019/3期 2Q実績		2020/3期2Q					
			当初予想		実績			
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比	予想比
売上高	4,062	-	4,300	-	3,782	-	-6.9%	-12.0%
営業利益	467	11.5%	430	10.0%	380	10.1%	-18.6%	-11.4%
経常利益	489	12.0%	445	10.3%	397	10.5%	-18.8%	-10.8%
当期純利益	365	9.0%	290	6.7%	254	6.7%	-30.4%	-12.3%

## ■セグメント内訳(セグメント相殺前)

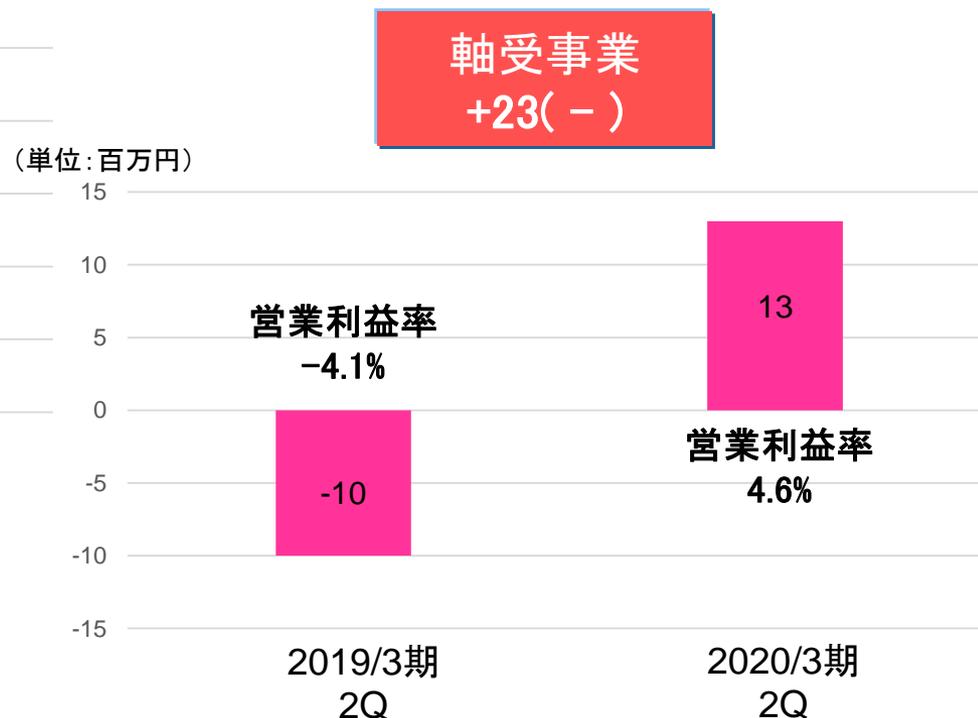
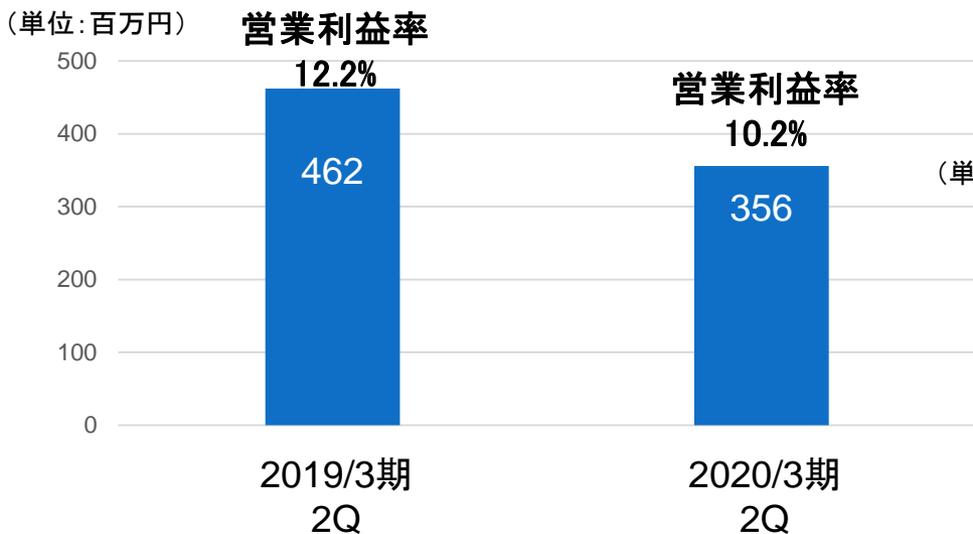
農機	売上高	3,806	-	4,022	-	3,501	-	-8.0%	-12.9%
	営業利益	462	12.2%	417	10.3%	356	10.2%	-22.9%	-14.5%
軸受	売上高	255	-	278	-	280	-	+9.8%	+0.9%
	営業利益	-10	-4.1%	7	2.5%	13	4.6%	-	+91.9%

■ 農業機械事業は減収だが、軸受事業は増収

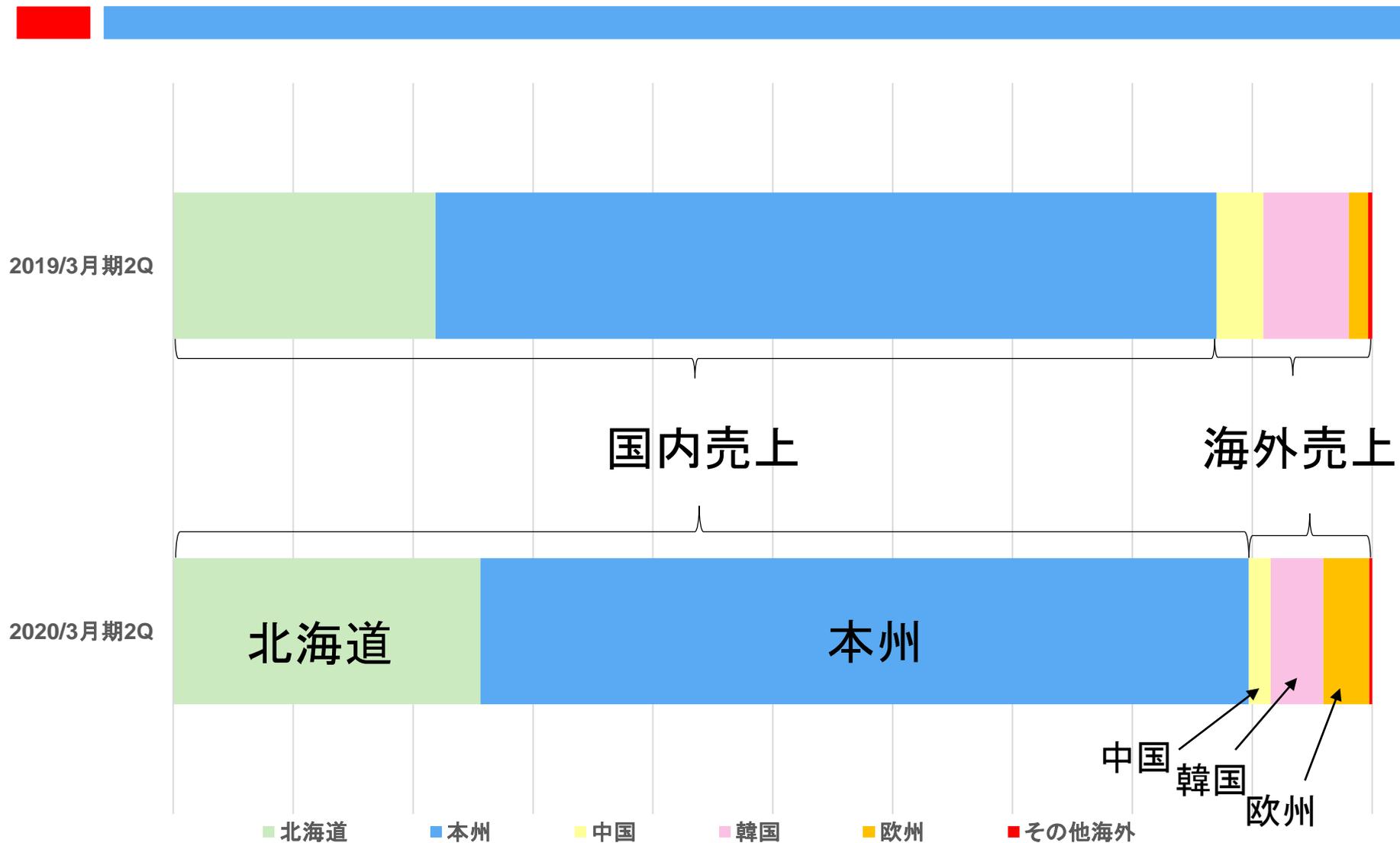


- 農業機械事業は減益、軸受事業は増益
- 全体の営業利益率は10.1%となり、目標とする営業利益率水準(10%以上)を維持

農業機械事業  
-105(-22.9%)



# 地域別売上占率(農業機械事業)



# 貸借対照表

	2019/3期	2020/3期 2Q	差異
資産の部			
流動資産	4,747	<b>4,654</b>	-93
固定資産	3,604	<b>3,569</b>	-35
(資産合計)	8,351	<b>8,223</b>	-128
負債の部			
流動負債	1,818	<b>1,483</b>	-335
固定負債	406	<b>389</b>	-17
(負債合計)	2,224	<b>1,872</b>	-351
(純資産合計)	6,127	<b>6,350</b>	223
負債純資産合計	8,351	<b>8,223</b>	-128

(単位:百万円)

現金及び預金 : -542  
受取手形及び売掛金 : +263  
棚卸資産 : +88

機械装置・建物 : -73  
建設・ソフト仮勘定 : +38

支払手形及び買掛金 :-103  
短期借入金 :-188  
設備関係電子記録債務 : -68

## ◎自己資本比率の推移

2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3 2Q
68.9%	71.9%	71.1%	73.0%	<b>76.7%</b>

## 2. 当期の業績予想





## 【農業機械事業】国内

- 
- ・国の「畜産クラスター事業」の後押しによる、細断型シリーズ等を中心とした主力製品の販売強化
  - ・土づくり関連作業機を中心に、補助事業に左右されない小型新製品の拡販



## 【農業機械事業】海外

- 
- ・ヨーロッパ市場に向け、細断型シリーズ拡販。
  - ・中国は内製化が進む中、輸出メニュー増加に向け顧客開拓。



## 【軸受事業】

- 
- ・更なる品質の向上と納期遵守による生産能力の向上に注力。風力発電用軸受等の受注増



## 【利益面】



引き続き資材高騰や人件費等の製造原価高の影響を受けるものの、新規設備を生かした業務効率の改善と一層の原価低減活動による収益力の向上を図る。

売上高 73億00百万円 前年同期比 +2.1%

営業利益 6億60百万円 前年同期比 +4.3%

経常利益 7億00百万円 前年同期比 +2.4%

当期純利益 4億50百万円 前年同期比 +4.2%



売上高、各利益ともに増収、増益を予想   
(期初予想から修正なし)

# 2020年3月期業績予想の概要

(単位: 百万円)

科目	2019/3期実績		2020/3期 上期実績	2020/3期 下期予想	2020/3期 通期予想		
	金額	構成比	金額	金額	通期 予想	構成比	前期 増減率
売上高	7,147	-	3,782	3,518	7,300	-	+2.1%
営業利益	632	8.9%	380	280	660	9.0%	+4.3%
経常利益	683	9.6%	397	303	700	9.6%	+2.4%
当期純利益	431	6.0%	254	196	450	6.2%	+4.2%

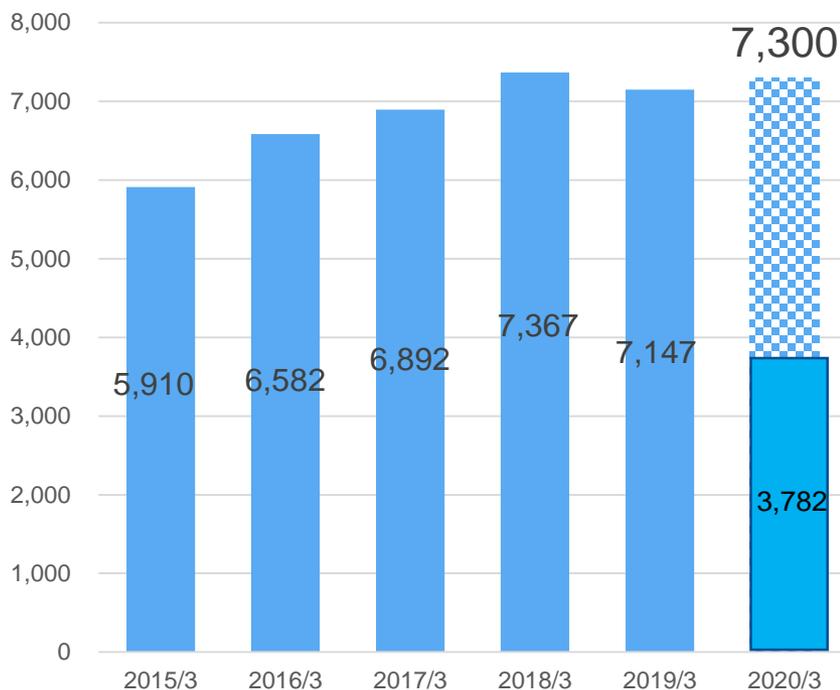
## ■セグメント内訳(セグメント相殺前)

農機	売上高	6,607	-	3,501	3,241	6,742	-	+2.0%
	営業利益	589	8.9%	356	278	634	9.4%	+7.6%
軸受	売上高	540	-	280	278	558	-	+3.3%
	営業利益	13	2.5%	13	1	14	2.5%	+5.1%

- 2016/3期以降、国の畜産クラスター事業の後押しや、中国向け輸出増加により堅調に推移。2019/3期は、畜産クラスター事業の導入の遅れや中国向け輸出減少により減収。

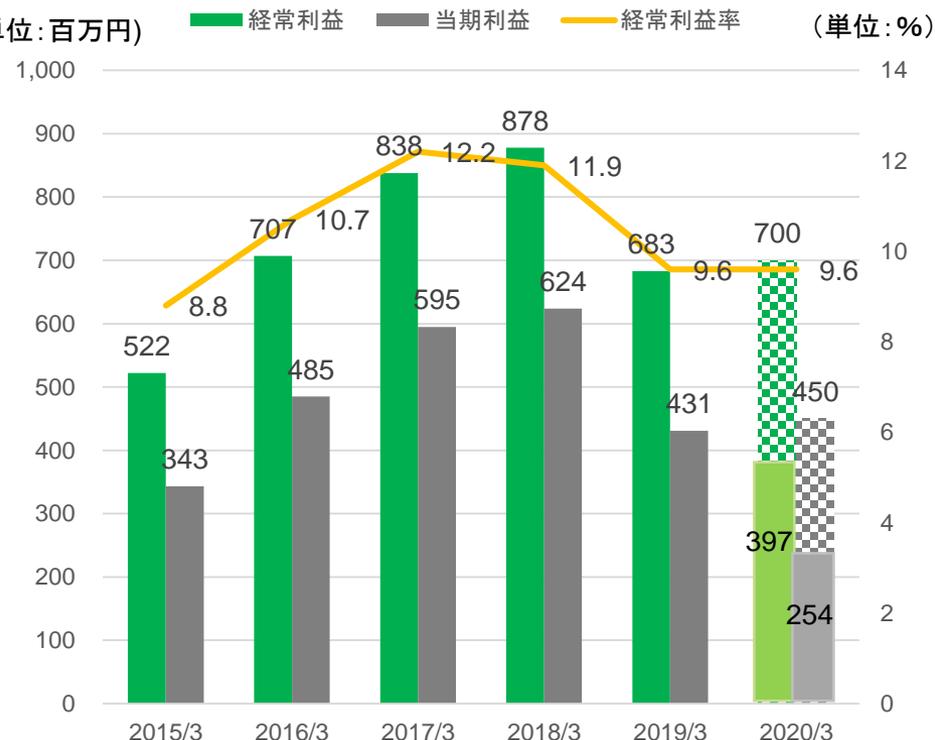
## 売上高

(単位:百万円)



## 利益

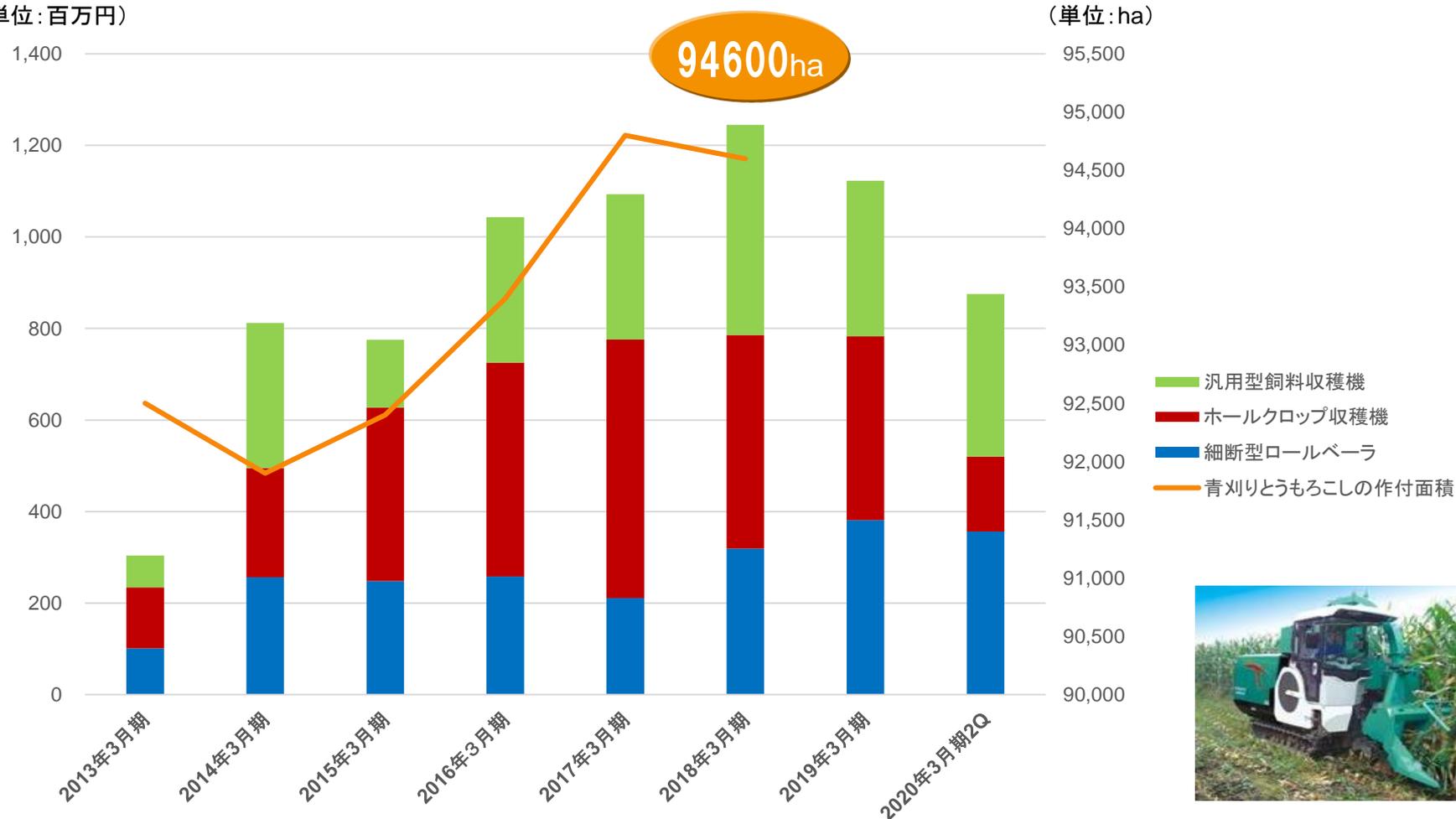
(単位:百万円)



## 細断型シリーズ販売実績と青刈りとうもろこしの作付面積の推移

(単位: 百万円)

(単位: ha)



(単位:百万円)

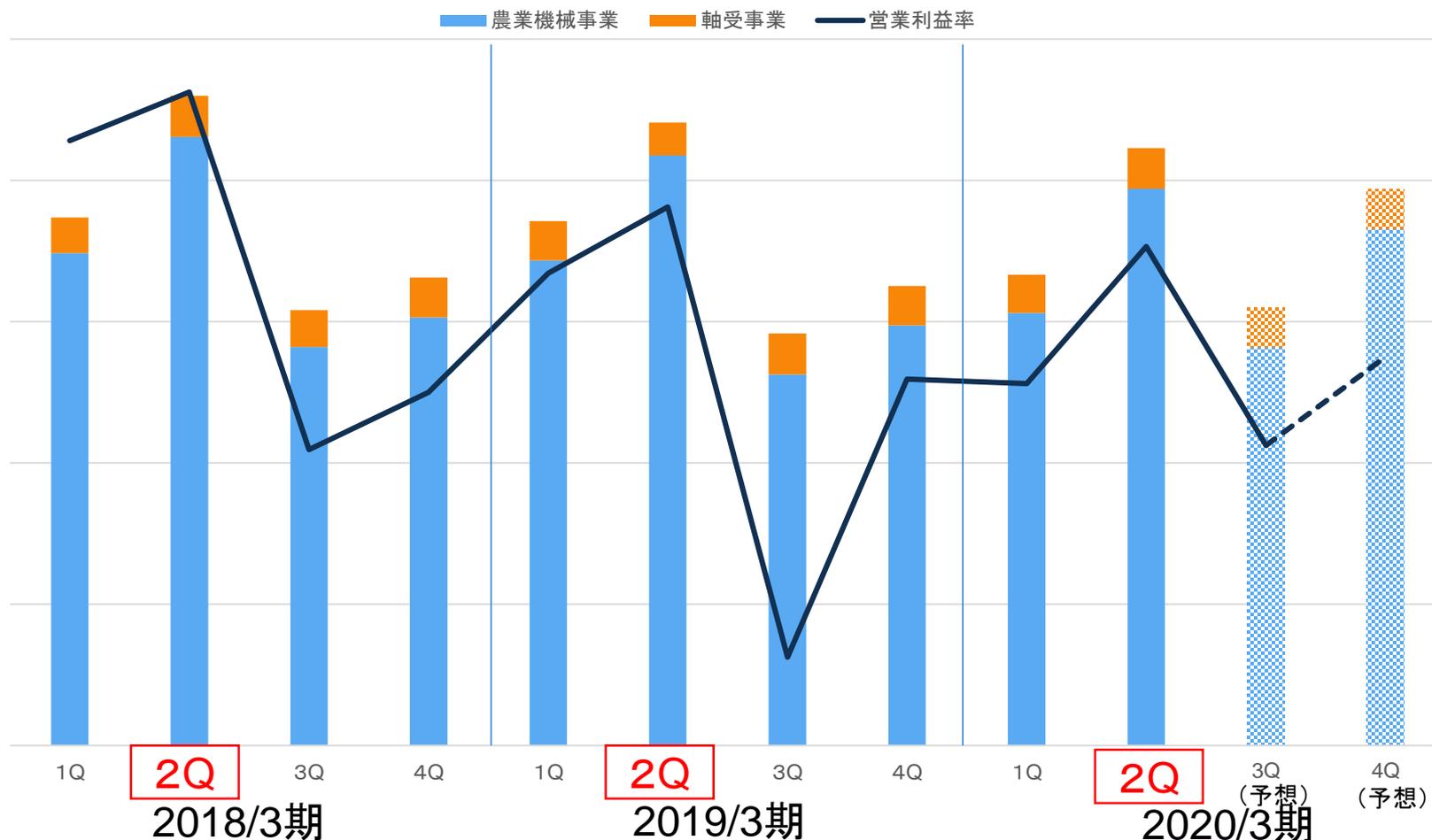
	設備 投資額	売上 対比	減価 償却費	売上 対比	研究 開発費	売上 対比	売上高
2018/3期	379	5.1%	250	3.4%	94	1.3%	7,367
2019/3期	593	8.3%	262	3.7%	108	1.5%	7,147
2020/3期 (予定)	173	2.4%	265	3.6%	117	1.6%	7,300
上期実績	※ 43	1.1%	121	3.2%	52	1.4%	3,782

※システム更新等に係る建設仮勘定、ソフトウェア仮勘定34百万円除く

- 2019年3月期は農業機械事業におけるファイバーレーザー複合加工機の導入や製品倉庫の新設、耐震補強工事を実施。
- 2020年3月期は開発用CAD更新や基幹システムERP化に向けたソフトウェア更新等を実施中。

# 四半期業績推移(売上高)

当社の農業機械部門の収益性は2Qが一番高く、4Qは不需要期のため他の四半期と比較して低くなる傾向にあります。



### 3. 経営TOPIXと 今後の成長戦略



2010年基本計画の検証結果を踏まえ、新たな目標は、「計画期間内の実現可能性を重視」して設定。

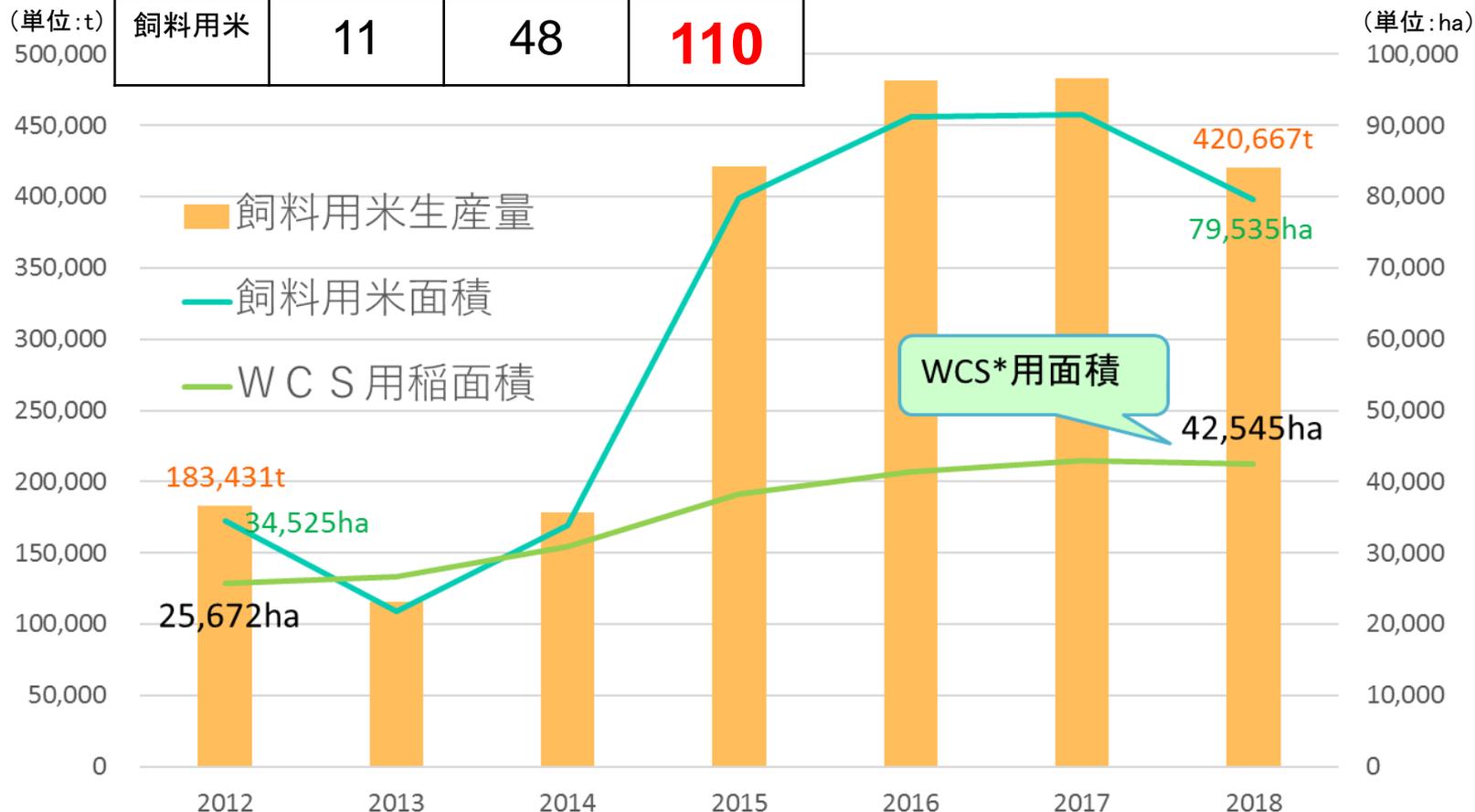
## 新たな食料自給率目標等

		2018年度	2025年度 (目標年度)
2015年 基本計画	カロリーベース	37%	<b>45%</b>
	生産額ベース	66%	<b>73%</b>
	飼料自給率	25%	<b>40%</b>

# 新規需要米等の生産量と作付面積の推移

品目	生産努力目標（万トン）		
	2013年度	2017年度	2025年度
飼料用米	11	48	<b>110</b>

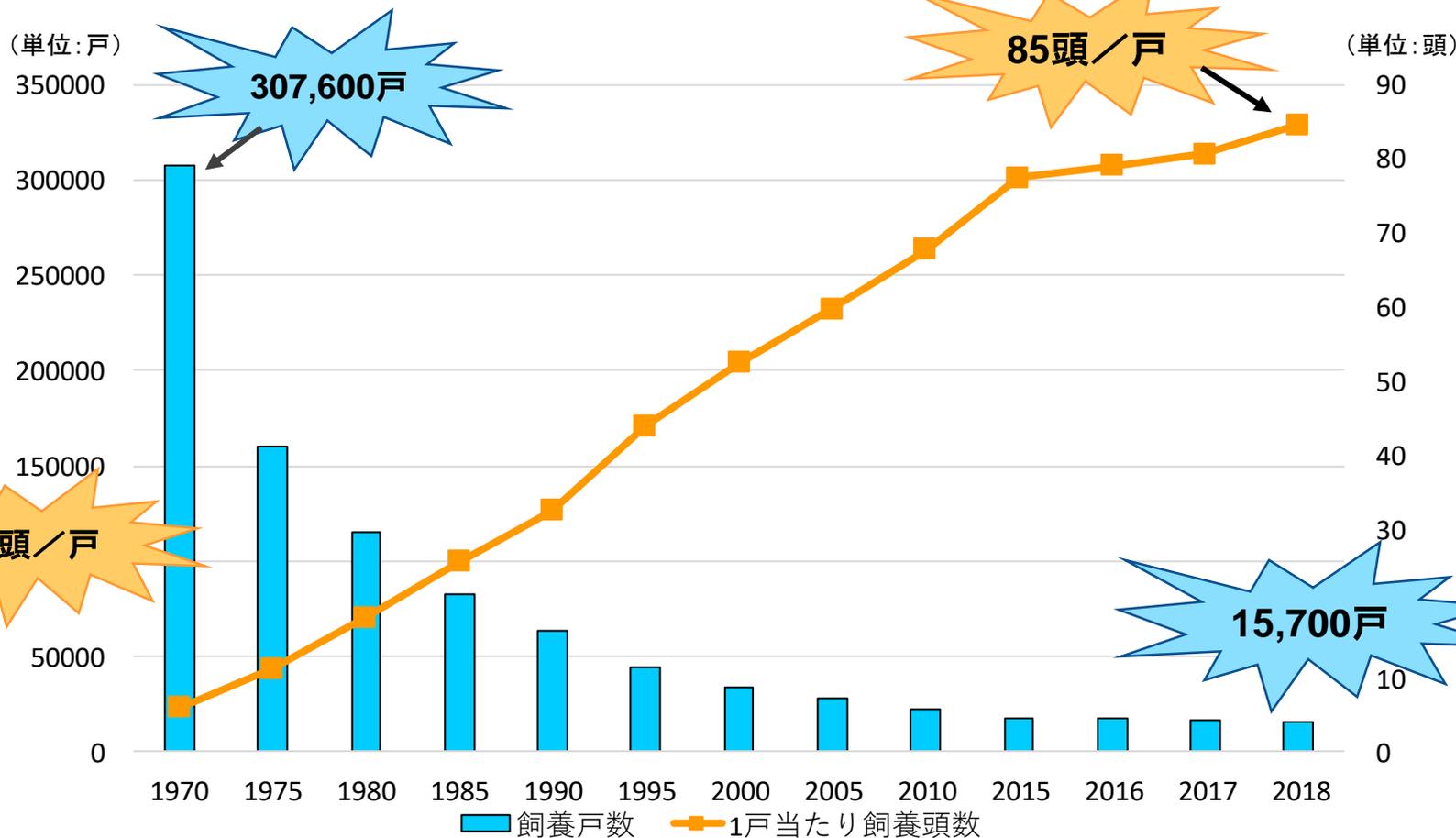
WCS用面積は堅調な増加



※WCS・・・ホールクロップサイレージ(飼料用稲)

## 畜産統計 乳用牛飼養戸数と飼養頭数

## 進む大規模経営化



## 酪農生産基盤の強化に向けた政策的支援

### 畜産クラスター事業

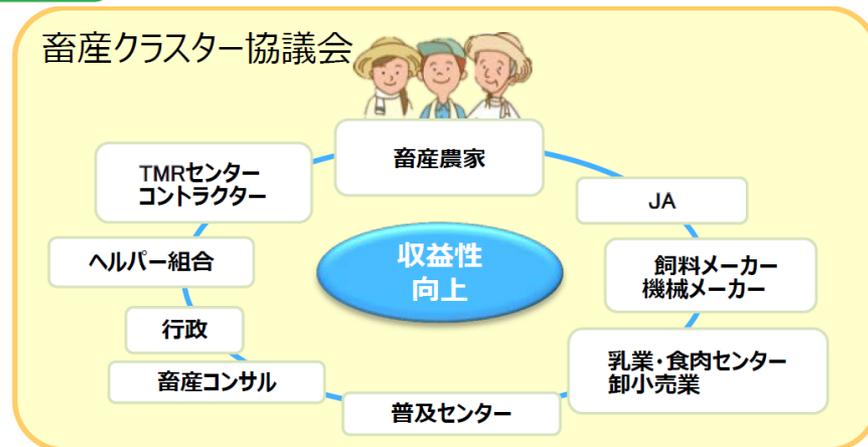
(畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業)



※2015年度補正予算から基金化

資料:農水省HPより当社作成

畜産クラスター協議会



### 機械導入事業

地域の収益性向上等に必要な機械導入や施設整備等を支援



搾乳ロボット

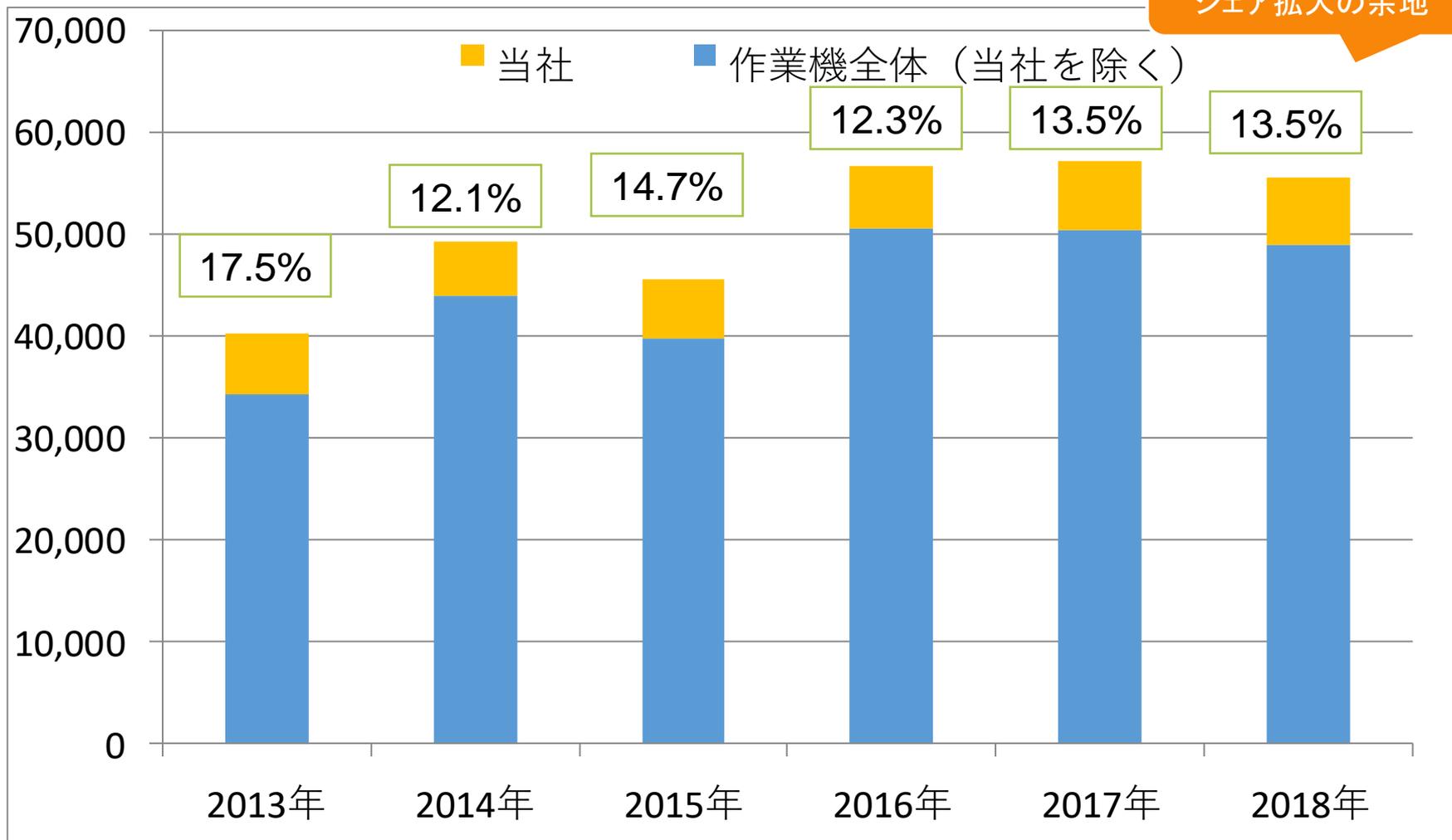


飼料収穫機

# 国内農業用作業機業界の動向(シェア割合)

(単位:百万円)

国内市場においても  
シェア拡大の余地



資料: 日農工作業機部会報告より当社作成

# Offensive 110

期間:2013年4月 ~ 2023年3月 までの10年間

## <企業方針>

- ・グローバルニッチであっても本気で一流企業を目指す。
- ・新たな収益機会の開発や市場創造と優位性基盤の確立を図る。
- ・最高の商品とサービスを創造し、お客様に真の満足をご提供する。

## <行動方針>

- ・常に現状否定に徹し、安易な妥協はしない。
- ・常にひとつ上の基準・視点に立って判断、行動する。

## <THIRD STAGE スローガン>

「 限りなき挑戦 強固な基盤 未来をかたちに Offensive110 」

## <国内向け戦略>

国の食料・農業・農村基本計画(食料自給率の引き上げ)に沿った製品開発や、「安全・安心」な食料の供給、「強い農業づくり」ができる製品開発を行い、それらの製品を市場へ投入する。

- 高品質な飼料増産、農業の省力化に対応する製品開発
- 大規模化に対応する高能率な大型製品の開発
- スマート農業の実現に向けた製品のICT化  
(作業機の様々な情報をトラクタに送信する仕組みや、GPSを利用した散布等)

+補助事業に左右されない土づくり関連作業機・有機散布機の市場拡大・提案推進

+国産ならではのアフターサービス面でのサポート力の強化(農閑期における整備・点検の促進)

## <海外向け戦略>

### 中国

合弁会社/山東五征高北農牧機械有限公司を核として、中国市場へ新製品を投入し、商品レンジの拡大とロールベアラ市場を深掘する。

### 韓国

汎用型微細断型飼料収穫機等、引き続きトウモロコシ・飼料米分野の製品を中心に維持・拡販するとともに新製品投入を図る。

### ヨーロッパ

実績のあるオランダの取引先との連携強化により、ニッチ市場に向けた新製品の投入を含め、EU市場への売上拡大を図る。

### インド

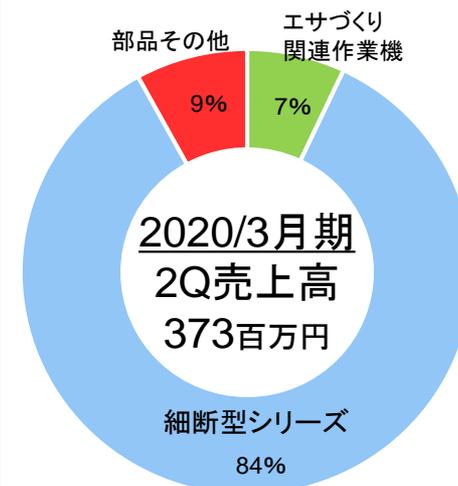
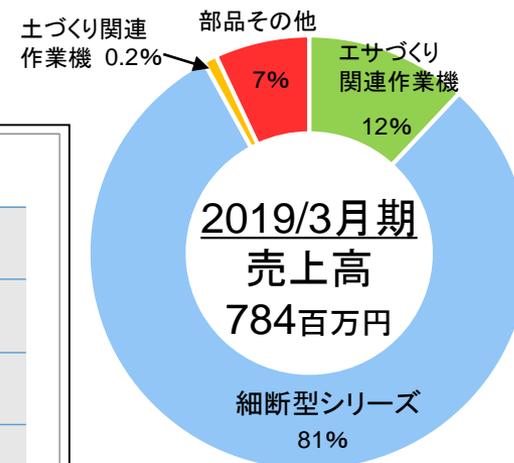
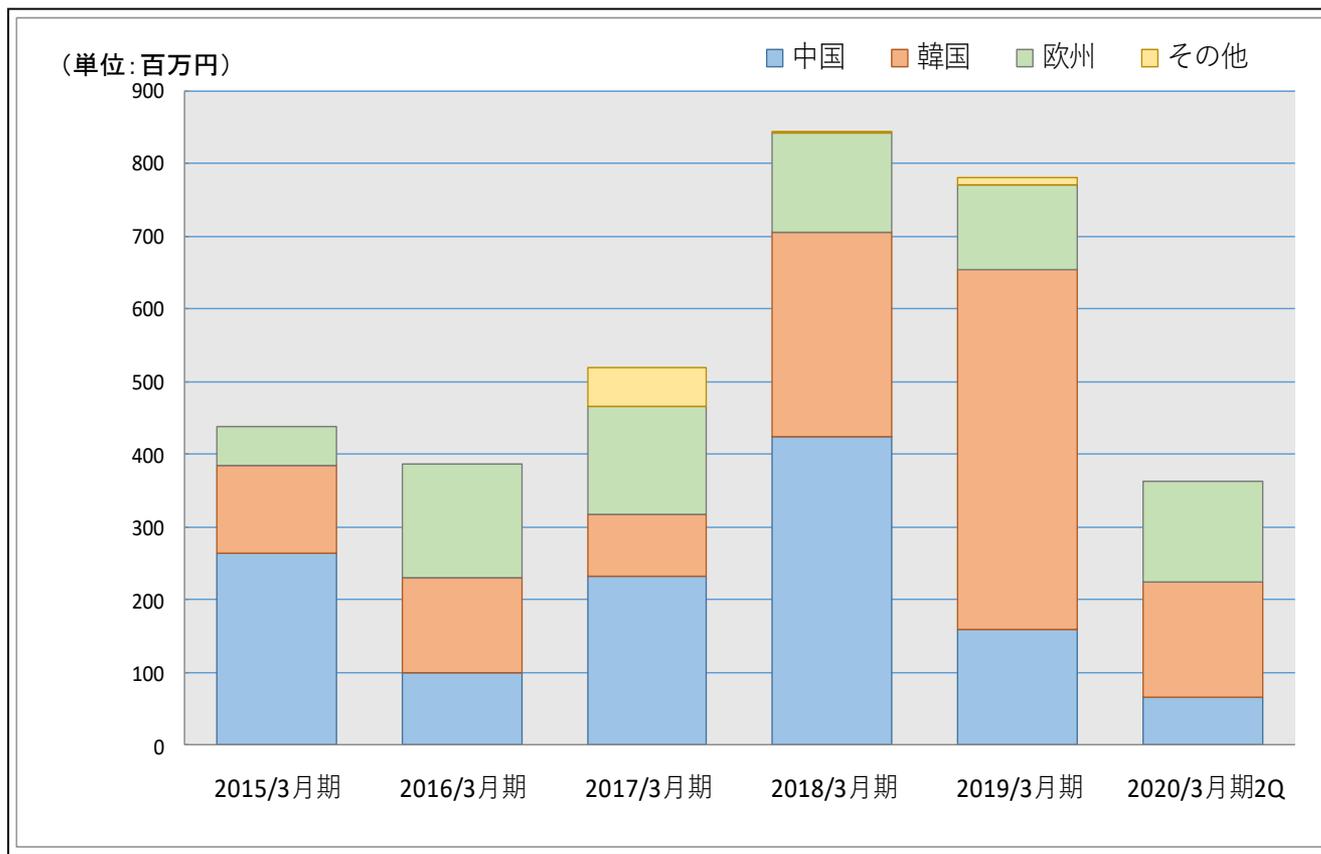
小型ロールベアラの技術提携生産による市場開拓に加え、東南アジア向けを中心に輸出・マーケティング活動を拡充し、当社製品の販路を開拓する。

### 新規市場開拓

細断型シリーズへの注目が高まっている、ベトナム・ロシア・オーストラリア等の市場での販路開拓と市場活性化を図る。

## 海外売上高の推移

■ 2019年3月期は、中国が減少した一方で韓国向け輸出が伸張



## 酪農関係指標の日中比較

	単位	中国  (2015年)	日本  (2017年)
酪農家戸数	戸	1,554,600	16,400
乳用牛飼養頭数	千頭	15,072	1,323
1戸当たり飼養頭数	頭	10	81
生乳生産量	千トン	38,703	7,280
1頭あたり乳量	kg	6,000	8,000~9,000

日本の  
**94.8**倍  
**11.4**  
**0.1**  
**5.3**  
**0.7**

資料: 農林水産省、中国国家统计局

① 国内市場でのシェアアップ

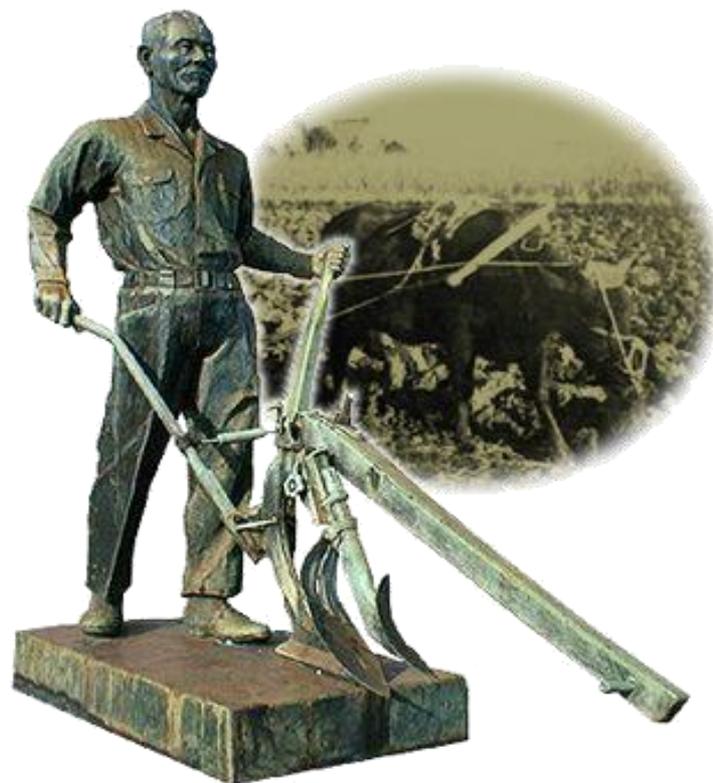
② 軸受加工の受注拡大

③ 海外展開加速

2023年3月期を目処に  
売上高：100億円  
営業利益率：10%以上  
を目指す

# ご参考

## ① 当社の概要



商号	株式会社タカキタ(Takakita Co., Ltd.)
本店所在地	三重県名張市夏見2828番地
代表者	代表取締役社長 松本 充生
創業・設立年月	1912年(明治45年)1月・1945年(昭和20年)3月
資本金	13億5,000万円
発行済株式数	14,000千株
決算期	3月
事業内容	農業機械の製造販売及び軸受加工
従業員数	292名
企業理念 社是	鋭い感性、豊かな知性と果敢な行動力で社会に貢献できる企業を目指します。 「道をつくる」 限りなき大空 悠々の大地
ビジョン	<社会貢献> 独自の価値観による商品提案で社会貢献を目指します。 <企業信頼> グローバルニッチであっても、競争力・提案力をつけ一流企業を目指します。 <顧客満足> 最高の商品とサービスを創造し、お客様に真の満足を提供します。



合併会社  
山東五征高北農牧機械有限公司  
(2016年10月設立)



札幌工場



本社・工場



本社  
関西営業所  
海外営業本部

全国に広がる  
タカキタのネットワーク

# 会社沿革



東証・名証市場第1部に上場



山東五征集団有限公司と合併会社設立

創業100周年を迎える

商号を株式会社タカキタに改称

タナシン電機株式会社と業務、資本提携  
(2009年業務提携 解消)

札幌支社開設

1988

2006

軸受事業においてISO9001・2000認証取得

光洋精工株式会社(現 株式会社ジェイテクト)と業務提携

1970

1967

名証・東証市場第2部に上場

1962  
1963

株式会社高北農機製作所を設立

1945

1912 創業

大正～昭和初期



畜力用犁

昭和30年代



耕うん機用犁

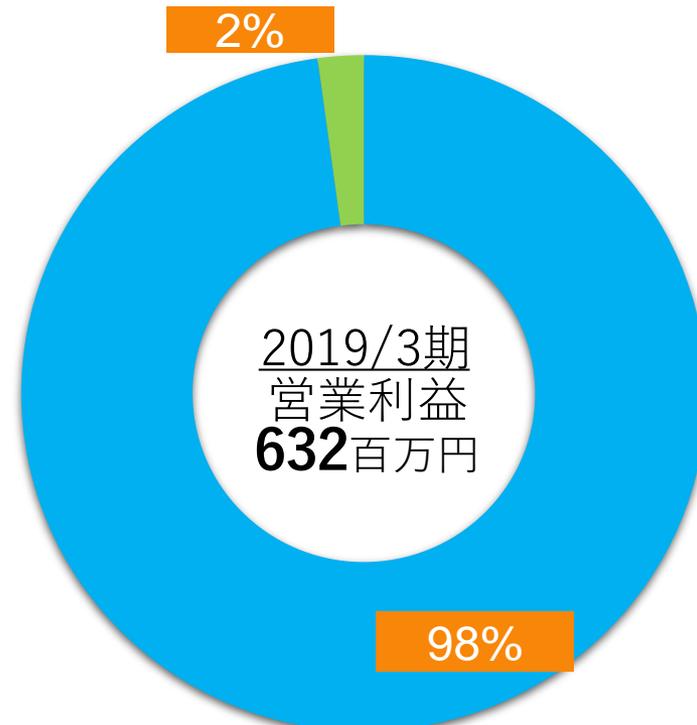
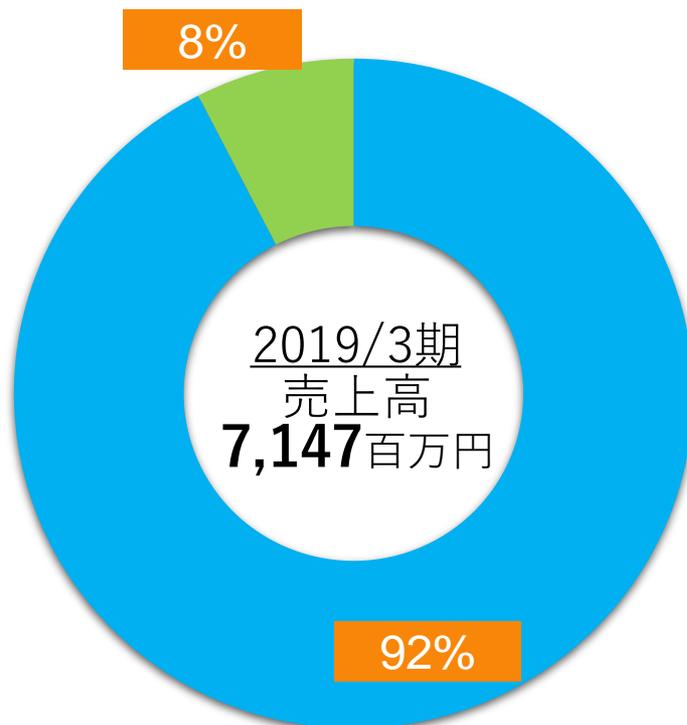
昭和40年代～現代



トラクタ用作業機



自走式作業機



■ 農機事業 ■ 軸受事業

■ 農機事業 ■ 軸受事業

農機事業

酪農畜産用飼料収穫機、土作り作業等の農業機械の製造・販売

軸受事業

大型ベアリングの旋削加工及びローラ研磨

トラクタメーカー

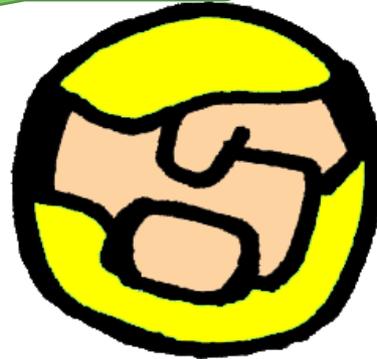
クボタ、ヤンマー  
イセキ など



トラクタ

実作業を提供

走行動力源



作業機メーカー

タカキタ



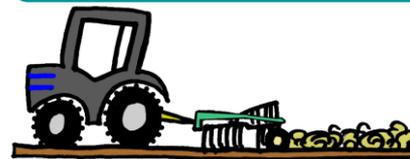
作業機

有機肥料散布

おいしい有機野菜



牧草収穫・梱包



安全安心な国産の  
エサづくり



## 土づくり関連



## 餌づくり関連

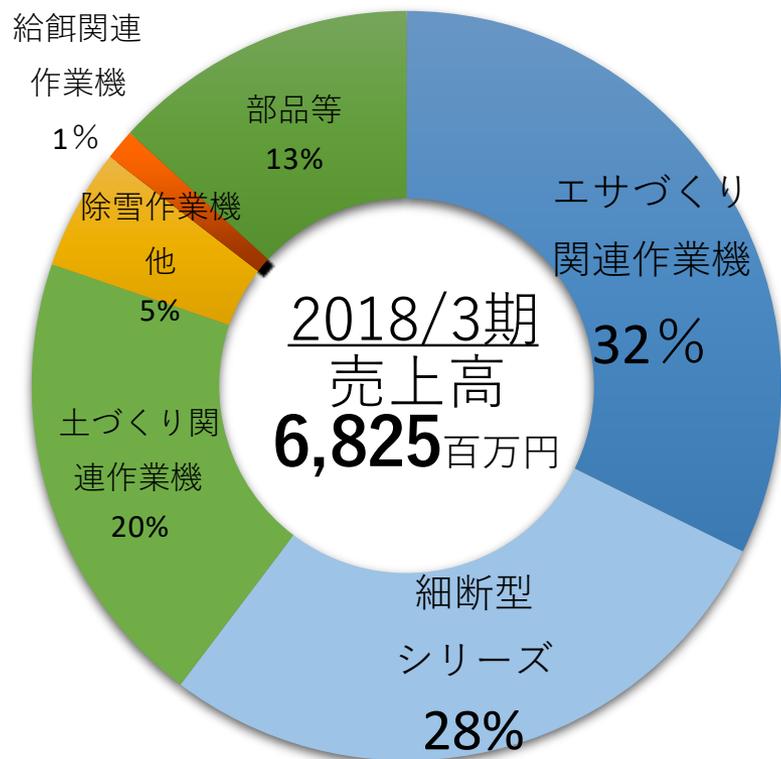


## 給餌・除雪・その他

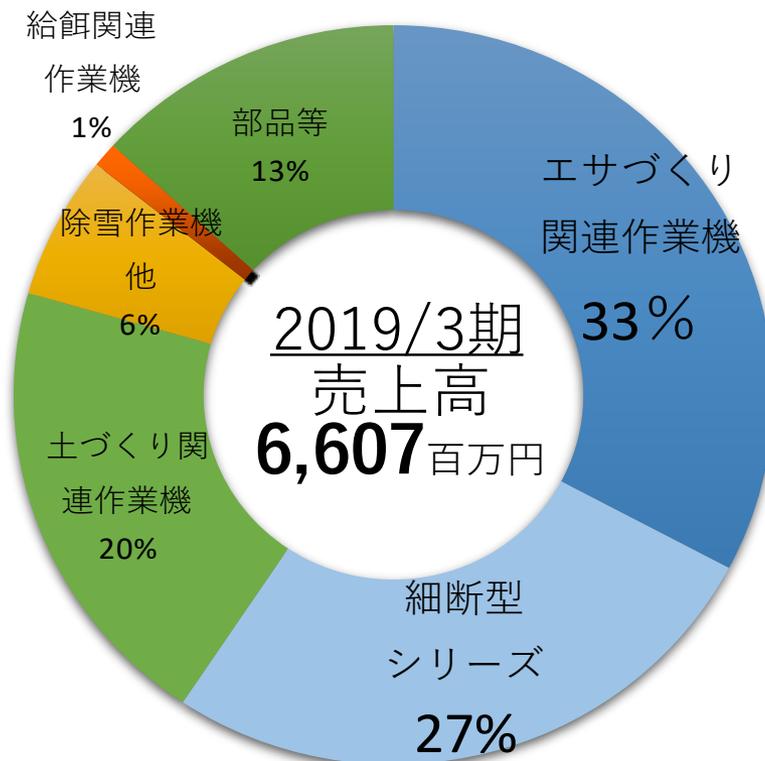


## ■ エサづくり関連作業機と細断型シリーズが主力

2018/3期



2019/3期



ご参考

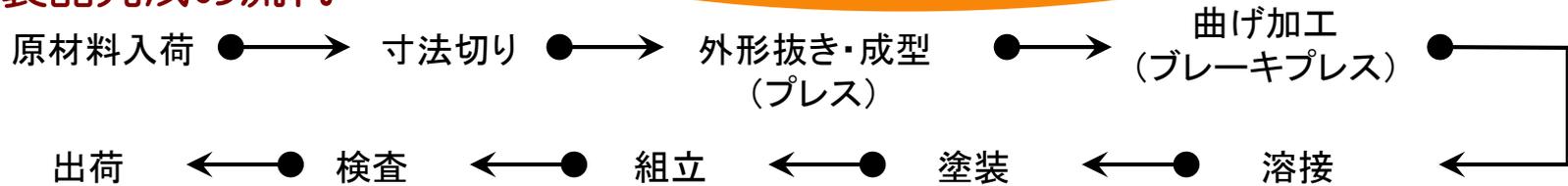
② 当社事業の特徴・強み



## 農業機械事業

### 製品完成の流れ

## 材料切断から組立まで 一貫生産



レーザー加工機作業



プレス作業



ブレーキプレス作業



溶接ロボット作業風景



牧草梱包・調整作業機



組立作業風景



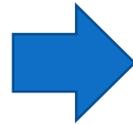
塗装作業風景

## トウモロコシのサイレージ化は、人手と手間がかかる

7月～8月の炎天下酷暑の中・・・



刈取・収穫



運搬



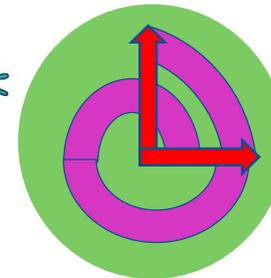
スタックサイロ体系



荷降・踏圧



密封・貯蔵



6人で  
約15時間(1ha)  
延べ90時間

## 国産飼料の自給を目指して

国産飼料自給UPの為、

栄養価・収量が牧草の2.5倍以上の

**飼料用トウモロコシの**

**作付け拡大が急務！**

当社のロールベアラの技術を利用して、トウモロコシの飼料づくりが省力化できないか？

農水省の研究機関(生研センター)との  
共同研究を実施



青刈トウモロコシ



切断長  
1cm

2001年に研究を開始  
2003年に製品化

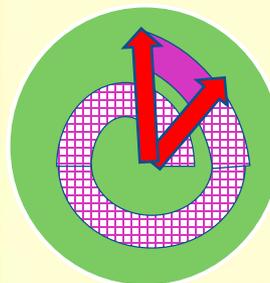
# 細断型ローラーベアラで

世界初の独自技術

# 大幅な省力化!



スタックサイロ体系



2人で  
**6.96**時間(1ha)  
延べ約**14**時間

85%  
の削減

2人でラクラク



楽だよ~!!



## 軸受事業

### ◆業務内容

株式会社ジェイテクト、KOYOブランドの大型ベアリングの内外輪・転子の旋削加工及び転子の研磨加工



### ◆使用用途

新幹線用車軸、風力発電、産業用機械等



経営体質強化による  
企業価値の向上

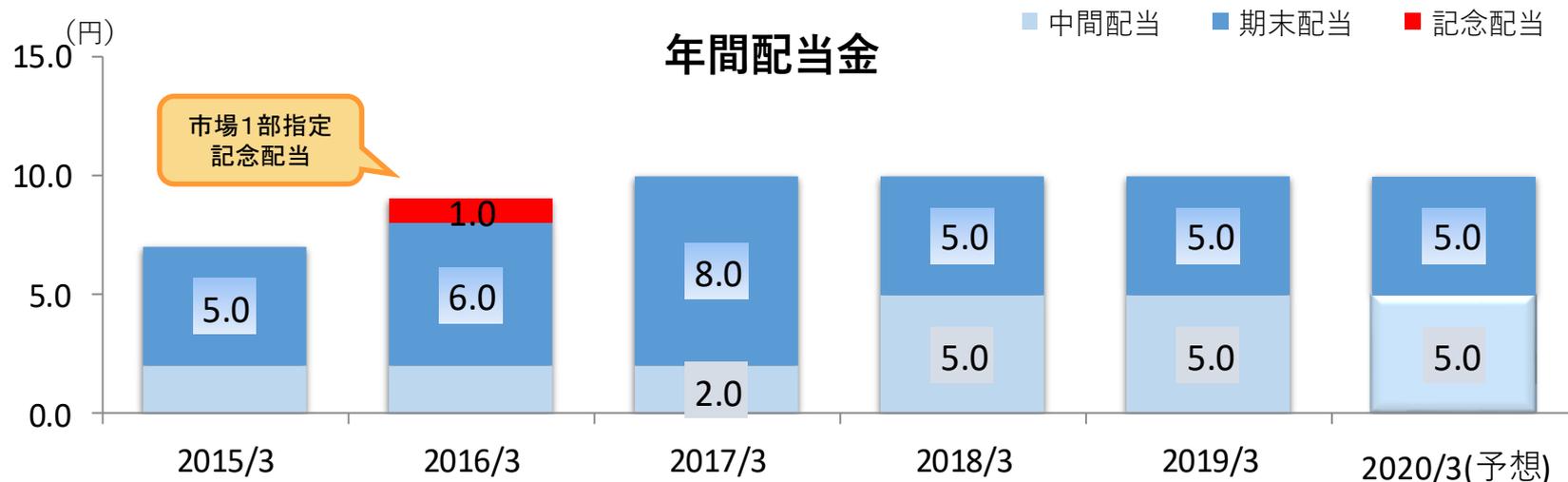


安定した  
継続的な配当

株主の皆様への期待に応える利益還元を目指す

## ■株主優待制度

基準日	保有株数	優待内容	贈呈時期
9月末日	100株以上1,000株未満	クオカード: 500円分	12月
	1,000株以上	クオカード: 1,000円分	



今後とも、タカキタをよろしくお願い申し上げます。  
本日は、ご清聴ありがとうございました。

【お問い合わせ先】

株式会社タカキタ 管理本部

E-mail: soumu@takakita-net.co.jp

TEL: 0595-63-3111

ホームページ: <http://www.takakita-net.co.jp/>

■本資料の注意点

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。